中村哲の「三無主義」

私は中村哲医師が死亡したときに、本当に遅まきながらペシャワール会の会員になり、以来、「ペシャワール会報」を受け取っています。先月届いた会報の中に「２１年度会計報告」が載っていて改めて考えさせられました。

一般会計の収入合計が８億円なのです。最初「ドル」が単位なのかと疑ったほどに、あの尊い事業がほんの僅かな浄財によって成り立っていることに驚きます。これから国家予算がいろいろなことに使われるのでしょうが、この８億円と比べてその有効さの度合いを考えてみようと思います。

さてその「ペシャワール会報」最新号に、「三無主義」と題する中村哲医師の 1992 年の文章が載っていました。しばし考えさせられる内容でしたので紹介します。

それによると、ペシャワール会の理念を尋ねられたとき、「無思想、無節操、無駄」の三無主義だと言ってケムに巻くようにしている、というのです。

■　中村哲の三無主義とは

「無思想」とは、どだい人間の思想などタカが知れているという現地体験から辿り着いたものです。

哀れな難民を助けなければと頑張っている外国人ボランティアの暗い表情と、難民キャンプで食うや食わずの子どもが見せる明るい笑顔とを比べてみれば、何も失うものがない者がどれほど強いものかと感じるのだそうです。どんな立派な志でも、自分の業績や所有としてしまうと、気づかぬ傲りや偽りを生むと確信しているのだ、と。

これは何でもないような言葉に聞こえるかもしれませんが、言葉の裏に中村医師自身の焦げるような悔恨や反省が映し出されているに違いありません。

「無節操」のくだりでは、乞食から募金を受け取った話を披露しています。

ペシャワールの「職業的乞食」は実に堂々としていて「神は喜びます」と、施しを求めるのだそうです。もう少し腰の低さがあった方が実入りが良いのではないか、と問うてみると、その乞食は次のように言うのだそうです。

「貧者に恵みを与えるのは神に対して徳を積むことです。その心を忘れてはザカート（施し）はありませぬ」

税理士法人 福岡中央会計
〒810-0001
福岡市中央区天神５-７-３福岡天神北ビル３Ｆ
Tel. 092-715-5551
Fax. 092-721-5992
http://www.fc-tax.com

その乞食が高僧のように見えた中村医師は、こう応じたそうです。

「私もはるか東方から来て、かくかくしかじかの仕事をしておる。これもザカートということになりはしないか。ならばあなたも我々の仕事に施しをしなされ。神は喜びますぞ」

そうすると、その乞食は躊躇なく集めた小銭を中村医師に渡し、中村医師を大いに驚かせたのだそうです。それ以降「貧しい人に愛の手を」といった、惨めたらしい募金はせず、年金暮らしの千円も大口寄付の数百万円も、等価のものとして一様に受け取るようにしたといいます。

■　「無駄」をも良しとする態度

最後の「無駄」については、もっとも考えさせられました。

後で無駄なことをした、と失敗を率直に言えないところに成功は生まれない、と中村医師は言います。いつも成功のニュースばかり届けて喜ばせるのが目的となっては本末転倒ではないか、そもそも我々の仕事自体が経済性から見れば、見返りのない無駄なのだから、と。

これは、普通の感覚からは難しい考え方です。失敗も成功も等しく受け入れようというのですから。しかし、次の文章を読むと、不意に喝を入れられた思いがします。

> 時に募金のために活動をアピールすることがあっても、我々は自分を売り渡す騒々しい自己宣伝とは無縁であったと思う。この不器用な朴訥（ぼくとつ）さは、事実さえ商品に仕立てるジャーナリストからもしばしば煙たがられた。だが、こうしてこそ、我々は現地活動の初志を見失うことなく活動を継続できたのである。

魂の自由を求め、それを本当に実現しようとした者の言葉として私は受け取りました。

それからもうひとつ大切なことは、この「無駄」の考え方には、中村医師の仲間を大切に思う気持ちが表れていることです。

成功の事実だけを積み上げることに汲々としているのではなく、「嬉しいことも辛いことも、成功も失敗も、ともに泣き、笑いを分かち合おう」と思うと、中村医師は書いています。

2008 年に、若い現地スタッフが銃撃され死亡したときに、「もう一度若い人を危険なところに向かわせるわけにはいかない」と、現地の仕事を自分ひとりで背負おうとしたように、本当の辛さと悲しみは、自分だけで背負おうとしたのでしょうけれど。

（所長　瀬戸　英晴）

税理士法人 福岡中央会計
〒810-0001 福岡市中央区天神５-７-３福岡天神北ビル３Ｆ
Tel. 092-715-5551
Fax. 092-721-5992
http://www.fc-tax.com